PERL 教材を活用した授業プログラム

授業者	淺川 貴広（東京都立蒲田高等学校）	対象	２学年
教科	公民科 「公共」	単元	大項目B「金融のはたらき」 大項目C「ケーススタディ」

PERL 教材を活用した授業のねらい

＊金融リテラシーに関する教材を活用し、責任ある主体としての「投資」や「消費」の重要性、及びその在り方について考察させる。

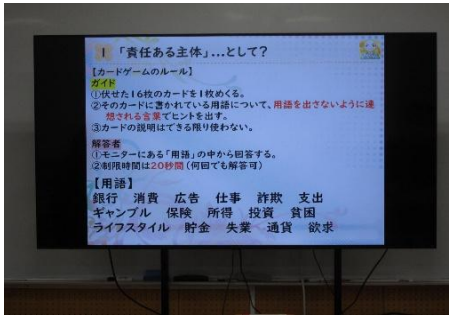
活用した教材・思考ツール 等

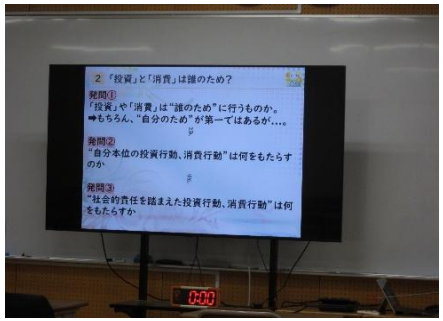
【教材】3. Financial Literacy, personal finance management
【授業手法】ICE モデルに基づいた問いの発展

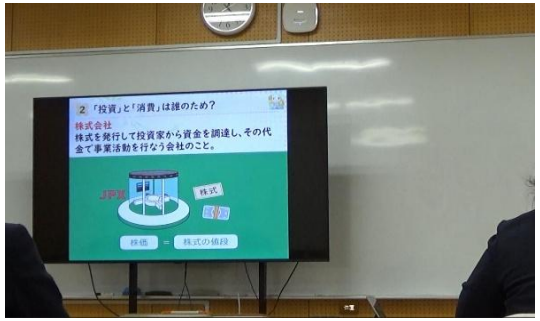
本時の学習目標

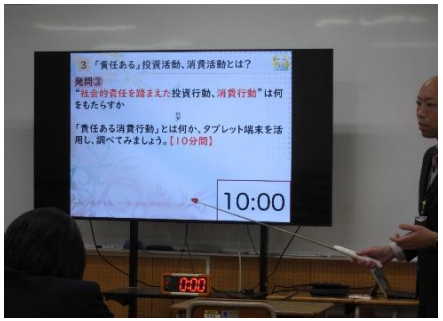
学習活動 （発問・指示・解説等）	指導上の留意点
前時の確認 ↓ 導入（PERL 教材） 教材を活用し、カードゲームに取り組む。 ↓ 展開①Ideas(基礎的知識) 知識の習得（インプット） ＊「投資」や「消費」は“誰のため”に行うものか ➡“自分のため”なら投資や消費行動に責任を持つ必要はないのか。 ↓ 展開②Connections(つながり) 問いの「拡張（＝設定）」 ＊“自分本位の投資（消費）行動”は何をもたらすのか ⇅ ＊“社会的責任を踏まえた投資（消費）行動”は何をもたらすか ↓ 展開③Connections(つながり) 問いの「解釈（＝分析）」「再構築」 ＊「投資」や「消費」は“誰のため”に行うものか ＊具体的にはどのような行動が必要になるか ↓ 本時のまとめ	【導入】 〇本校生徒の実態に合わせ、ゲームを次の通りアレンジする。 ・カードを半分にする（16枚） ・用語の一覧を生徒に提示する 〇「投資」や「消費」にどのようなイメージをもってカードゲームに臨んだのかを問う。 （予想される生徒の反応） 「投資」 株、もうけ…　「消費」 買い物、小売店… ⇓ 【展開①】 ≪発問①≫ 「投資」や「消費」は“誰のため”に行うものか。 ➡資料等を用いながら、特に投資は自身の資産形成が主であることを確認させる。 【展開②】 ≪発問②≫ “自分本位の投資（消費）行動”は何をもたらすのか ➡「投資する主体（自分）」と、「株式を発行する会社（株式会社）」の2つの立場か考えさせる。 （生徒に気付かせたい点） ・エゴが先行する投資では、「もうけ」を得ることが至上主義となる。 ・その結果として、企業は投資を集めるために短期的な利益のみを追究するようになり、場合によっては不正会計等を招く可能性もある。 ・消費行動についても同様に、例えば安さのみを追究した商品は環境への影響や労働者への影響を考慮しない商品となる。 ≪発問③≫ “社会的責任を踏まえた投資（消費）行動”は何をもたらすか （生徒に気付かせたい点） ・社会的責任を果たそうとする企業（環境への配慮、労働者環境改善、社会問題への取組等）へ投資や購買が集まれば、他の企業もそのような行動を取るようになる（＝取らない企業は淘汰される）。 ➡特に消費を中心にしながら、具体的な行動を調べ、まとめさせる。 【展開③】 ≪発問④（発問①）≫ 「投資」や「消費」は“誰のため”に行うものか （生徒に気付かせたい点） ・投資行動も消費行動も、大前提は自己のためであるが、それだけでは「責任ある行動」にはならない。

令和6（2024）年度
第3学年「世界史演習」
特別授業
PERL教材を活用した「投資」や「消費」
【本時の目標】
責任ある主体としての「投資」や「消費」のあり方を考察し、構想する。
【本時の主題】
なぜ責任ある主体としての「投資」や「消費」を行う必要があるのか。
0:20


1 「責任ある主体」…として？
【カードゲームのルール】
ガイド
①伏せた16枚のカードを1枚めくる。
②そのカードに書かれている用語について、用語を出さないように連想される言葉でヒントを出す。
③カードの説明はできる限り使わない。
解答者
①モニターにある「用語」の中から回答する。
②制限時間は20秒間（何回でも解答可）
【用語】
銀行　消費　広告　仕事　詐欺　支出
ギャンブル　保険　所得　投資　貧困
ライフスタイル　貯金　失業　通貨　欲求


2 「投資」と「消費」は誰のため？
発問①
「投資」や「消費」は“誰のため”に行うものか。
➡もちろん、“自分のため”が第一ではあるが…。
発問②
“自分本位の投資行動、消費行動”は何をもたらすのか
発問③
“社会的責任を踏まえた投資行動、消費行動”は何をもたらすか
0:00


2 「投資」と「消費」は誰のため？
株式会社
株式を発行して投資家から資金を調達し、その代金で事業活動を行なう会社のこと。
JPY
株式
株価
=
株式の値段


3 「責任ある」投資活動、消費活動とは？
発問③
“社会的責任を踏まえた投資行動、消費行動”は何をもたらすか
「責任ある消費行動」とは何か、タブレット端末を活用し、調べてみましょう。【10分間】
10:00
0:00